第５回　大学図書館学生協働交流シンポジウム

報告書

図書館維新

～図書館が繋ぐ人と人～

2015.9.8-9

■ はじめに

今、全国各地の大学図書館では、図書館業務の一端を職員と学生が協働で行う活動が盛んに行なわれています。１年に１度のこのシンポジウムでは、それぞれの大学図書館の特徴ある活動を報告し合い、学生、教職員共に交流を深める良い機会となっています。

第５回目を迎えた今回のシンポジウムは全国からの関心がますます高まり、大学生、教職員はもちろんのこと、今回初めて公共図書館職員の参加も得て、３５大学、１７８人が交流の輪を広げました。

大学図書館は、大学における学生の学習や教育研究にとって不可欠な機関であると同時に、学生生活を豊かにする読書の場でもあります。また読書会やビブリオバトルなどに代表されるような、読書を通して人と人が繋がる「場」でもあり、さらに、ラーニングコモンズでは、学生による学習支援の「場」ともなっています。また、イベントなどを中心に地域との繋がりを深める大学図書館もあります。このように、近年大学図書館では多種多様な「繋がり」が生み出されています。

今回のテーマは、「図書館維新～図書館が繋ぐ人と人～」です。　図書館という「場」での「繋がり」の創生を、新たな視点で考えていければという願いを込めて、このテーマとなりました。

参加した学生・教職員は、この２日間のシンポジウムで情報交換を行ない、交流を持つことで最も多くの「繋がり」を体験することになりました。

この報告書が、今後の学生協働の参考になりましたら幸いです。

今回のシンポジウム詳細については、梅光学院大学図書館の下記サイトに掲載されていますので、ご参照ください。

http://www.baiko.ac.jp/university/library/sympo2015

目次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
開催概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
各プログラム概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
当日アンケート集計結果　・・・・・・・・・・・・・・・・１３

1　開催概要

● 開催日程・会場

開 催 日　　2015年9月8日（火）～9月9日（水）

会　　場　　梅光学院大学キャンパス・下関市生涯学習プラザ

● プログラム

【1日目】　9月8日（火）　　場所：梅光学院大学キャンパス

12:30 －	受付	スタージェスホール1Ｆ
13:00 －	開会	スタージェスホール
13:10 －	講演 共読サポーターズとつくる人・本・学びの新しいカタチ ―リコメンドが循環するアクティブキャンパスを目指して― 講師：帝京大学メディアライブラリーセンター グループリーダー　　中嶋　康　氏	スタージェスホール
14:20 －	写真撮影・休憩	スタージェスホール
14:40 －	ワークショップ 「本のバトンをつなげ!！「共読ワークショップ」 これであなたもブックアスリート」 講師：帝京大学メディアライブラリーセンター職員	スタージェスホール
16:00 －	ポスターセッション 「今・わが大学のイチ押し活動　未来・これからしてみたい活動」	図書館
18:10 －	交流会	カフェテリア

【2日目】　9月9日（水）　　場所：下関市生涯学習プラザ

9:00 －	受付	宙のホール
9:30 －	ワールドカフェ 「繋がりを生み出す図書館となるために、あなたは何をしますか？」 コーディネーター：渡辺 玄英 （梅光学院大学文学部　講師）	宙のホール
11:40 －	閉会	宙のホール
12:00 －	中央図書館見学	中央図書館
12:30 －	教職員意見交換会　※教職員のみ	料理教室

● 主催

中国四国地区大学図書館協議会
　実行委員会
　　島根大学学術情報機構附属図書館
　　／島根大学教育・学生支援機構教育開発センター
　　島根県立大学メディアセンター
　　山口大学図書館／山口大学学生支援センター
　　梅光学院大学図書館／梅光学院大学学生支援センター

● 共催

山口県大学図書館協議会

● 後援

島根県大学・高等専門学校図書館協議会
山口大学後援財団

２　各プログラム概要

■ 講演

「共読サポーターズとつくる人・本・学びの新しいカタチ―リコメンドが循環するアクティブキャンパスを目指して―」をタイトルとして、帝京大学メディアライブラリーセンター、グループリーダーの中嶋康先生による講演が行なわれた。「読み合い、薦め合い、評し合う」をコンセプトに帝京大学と編集工学研究所が行なっている、読書推進プログラム「共読ライブラリー」について講演した。国内の大学では極めて稀な取り組みである「共読」とは何かを述べ、「人と本」が図書館で繋がる新しいカタチを提示した。

■ ワークショップ

「本のバトンをつなげ！！共読ワークショップ　これであなたもブックアスリート」をタイトルとして、本の帯を作るワークショップを行なった。全員が、初めて手に取る新書本の目次情報と見出し情報から内容を把握し、キーワードを書き出した後、キャッチコピーを作成した。「そうだ！お金をバラマこう！！」「ダメ出しをダメ押せばイイ関係」など、愉快なキャッチコピーが多く生まれた。３人１組のグループとなり、お互いにその本を紹介し合った。出来上がった作品は、即、図書館内に展示し参加者の目を楽しませた。

■ ポスターセッション

「今・わが大学のイチ押し活動　未来・これからしてみたい活動」をテーマに、１７大学がポスター掲示、発表を行なった。

またこの間、梅光学院大学茶道部によるお茶のおもてなし、ハンドベル部の演奏などが行なわれた。

以下、当日掲示されたポスターと、参加者より寄せられたコメントの一部を掲載する。

※ポスターの内容は、梅光学院大学図書館ＨＰで見ることができます。

岩手県立大学

・読書会の内容が自分のしたことのあるものと違って面白かった。「学生のため・目線で」という意志が感じられる発表だった。
・クイズを出しているところがすごいと思った！（読書会）
・用語等具体的な説明でありがたかったです！　活動も楽しそうだと思いました。（選書など）
・選書ツアーなどの取り組みで、LA だけでなく他の一般学生の意見も図書館に取り入れることができるのがよいなぁと思いました。
・オススメ本の紹介の仕方、私たちもカウンター横で展示しようと思います！　ありがとうございました。

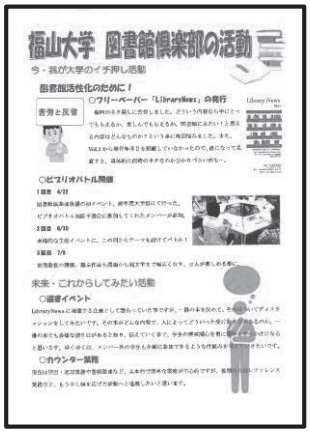
東京大学

・「ミニレクチャプログラム」 FFP で学んだ院生を講師とし、事前勉強会ミニレクチャを実施することは、今後図書館を活かす道ですね。場所も！スタッフも！
・うまく情報が整理されていて、とても見やすく伝わりやすいポスターだと思います。「新図書館計画」という明確なコンセプトの元で、効果的に活動を展開しておられると思います。
・新館に学生の意見が入るともっともっといいものができそうでワクワクしますネ！
・主体的な学習を目指していると感じた。ラーニング・コモンズの場をどう活用するかが大事だと思いました。

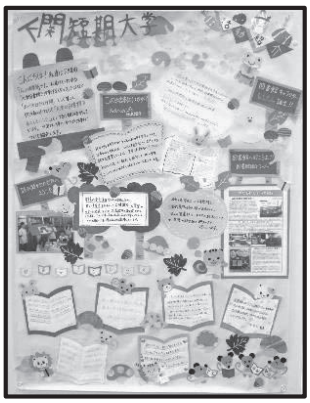
龍谷大学

・図書館のなぞときは一年生とか（改築したとのことでしたが）学校に慣れていない子には良いと思いました。
・謎解きゲームなど、とてもユニークな企画を行っているなと感じた。ユニークさを、私たちのサポーターも取り入れたらいいな、と感じた。
・説明がわかりやすく、図書館をよくしようとする意気込みがとても感じられました。みんなで一生懸命とり組んでいる様子が感じとれました。
・謎解きゲームで、ストーリー性のある問題を作成する、という案が面白いと思った。その大学ならではの問題をぜひ作ってほしい。
・高校生向けのビブリオバトルという発想は非常に面白いと感じた。広報しだいではもっと大きくなると思います。がんばって下さい！

福山大学



・まだできたばかりの図書館であったが、フリーペーパーの配布など魅力的な活動を行っていておもしろそうだと思う。
・できて1年の新しい委員会にも関わらず月に1回のビブリオバトルや会誌の発行など意欲的な活動を見ならいたい。
・フリーペーパーの発行、月一のビブリオバトルなど、活動量が多くアクティブで良いと思いました。
・まだまだこれからのクラブなので、末長くつづけていってほしいです！
・図書館セミナー、ビブリオバトル、ベストレンタルランキングなど、色々と活動を精力的に行っているんだなとサポーターを見て思いました。

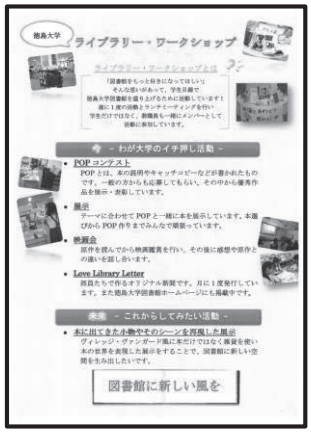


下関短期大学

・子供向けの活動は大学図書館の取り組みとしては珍しいなと思いました。ポスターが手作りとしてはとてもクオリティが高くてすごいです。
・学校の特色に合った図書館作り、すごいと思いました。マスコットキャラクターの「しもたん」もとてもキュートです！
・絵本の取り組みを中心に行っていると聞いて、絵本の持つ力はすごいなと改めて思いました。これからも絵本の活動を続けていってほしいです。
・在学生の倶楽部の方々が、図書館の方々や書店の方々、大学祭での市民、子供たちと楽しく活動されている姿が目に浮かびました！！
・もっとできる活動があると分かって良かったです。

徳島大学（学びサポート企画部＆ライブラリー・ワークショップ）

・学びサポートは参考になります。大学は勉強する場所なので、いかに学んでもらうかの工夫が必要です。また、人材育成は大切ですね。毎日、勉強して大学に貢献して下さい！
・学習支援について　かなり踏み込んだ活動をしている。どのように始まった活動か、興味があった。学生主体で始まったところが面白い。
・学生にとても真剣に向きあっていると感じた。学習意欲を伸ばすような企画は、私達でもできるのではないかと感じた。



・２つに分かれていてどちらも特色があっていいなと思いました。卒論発表会とかみてみたいです。
・学びサポート企画部サークルというのにおどろきました。学習サポートとイベントの両方もすばらしいですね。・卒論・先生のコバナシ→※ラーニングコモンズのイベントとしてすばらしいです！
・しっかりした、広報パンフレットがあって、すごいなと思いました。「学生の学習スタイルを変えよう！！」というコピーを、サークルのメンバーの方が、しっかりと理解し動かれている気がしました。ありがとうございました。
・卒論発表を共有できる場を設けているのがとても珍しいと思いました。自分の大学にも作りたい…笑

香川大学

・県庁とコラボして観光に力を入れているとこや図書館に人を集めようとしている工夫が感じられた。
・少ない人数でよくガンバッテル！
・今年発足でポスターセッションまで頑張っていて未来を感じました！
・館内写真が沢山あって館内展示も参考になった。自分達の図書館でも出来る限りの空間で活用されるような空間を作っていこうと思います。
・栗林の企画がどう図書館とつながるのか気になりました！！　つながったら、すごいなあと思いました！！

愛媛大学

・とても気配りができていて、親切な団体だと思いました。広報紙は真似してみたいと思います。
・SNS の利用はすごい発想だと思います。参考にします。
・クリスマスイベント　趣向がこらされていて参加する側が楽しめるものになっている点がいいと思います。
・月刊ひよこで図書館の使い方が学べて便利だと思いました。
・活動人数が多くて、うらやましいです。スタンプを作るのが、今後のやりたい事と書かれていました。デザインによって、盛り上がり度が決まりそう・・。

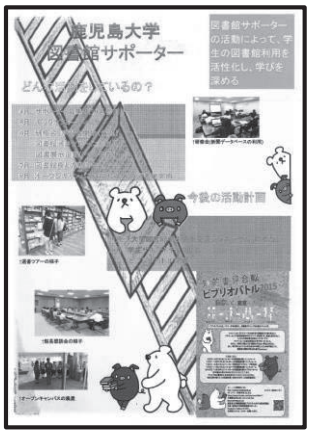
北九州市立大学

・リレー小説をサポーターが書いているのはすごい！　年間計画も立てているのでおくれることもなさそうで良い。
・書店とのコラボやサポーター間でのリレー小説など、斬新な活動が多くすごいと思った。
・実際に書店と連携するなど、アクティブに活動を広げていてすごいと思いました。
・先生からのおすすめの一冊をしおりにするのは Good idea！　おもしろい。
・楽しんで活動しておられる学生さん　いきいきしてステキです！

熊本大学

・レファレンスを学生がするにあたっていかに大変か知ることができてよかった。
・映像資料を使うイベント　親しみやすくなるためのゆるキャラなど工夫が感じられた。
・くまぽんかわいいです。
・TA の活動をこれからもがんばって下さい。まだまだ発展途上の途中なんだなと思いました。しかしその一方で、いろいろな取り組みを行っているんだなと感じました。
・留学生への英語ツアーの広報のやり方など参考になりました。

鹿児島大学



・目をひく構図でポスターデザインとして近づきました。説明を聴いてなるほどと思いました。
・毎週の研修会は、知識の習得の他に、サポーターの仲も深めることができるので良いと思いました。
・キャラクターがかわいいです。1年目ということで、長続きさせる工夫をたくさんがんばっておられて勉強になりました。年間スケジュールが参考になりました。
・今年できたばかりなのに、活動内容がぎっしり詰まっててすごいと思いました。キャラクターとっても可愛いです。今後どんな活動をしていくのかが気になります。
・フレッシュさがとても伝わってきました！　研修会、学習会がしっかりしているようなのがすごいですね。ぶっくまくんとまなぶたちゃんかわいいです。

島根大学

・図書館内を使った謎解きゲームは面白そうだった。図書館内で迷い子にならないように、答えを見つけたらその場所に現在地の地図をのせておくのは配慮がきいていると思った。
・オープンキャンパスの高校生に対するアプローチについて　自己満足だけではなく、参加者の気持ちを考えて行っていることがよくわかりました。学長のサイン色紙を高校生が喜んでいるというのは意外でした。
・ポスターがとても見やすくきれいでした。アンケート結果を出し、改善して取り組んでいるのがすばらしいです。
・笑顔がステキでした！　読書会、お互い課題がありそうですね。学内周知の仕方、参考になりました！ありがとうございました！

島根県立大学浜田キャンパス

・読書会というアイデアは、発想はとても良いと思うので、今後、企画の内容部分をもっと練っていくと多くの人に興味をもっていただけると思います。
・月展示をダイナミックにしている様子が伝わった。目に入りやすくていいと思った。
・趣味と独断で選んだ本を紹介するのはおもしろいなと思った。読書会も、文学をあまり読まない人でも参加できるように頑張ってほしいです。
・選書から、装備まで作業されておられてすばらしい。図書館の作業流れを、知ることができる。ラミネート、難しいですよね。
・テーマを統一した展示はその人の熱意がダイレクトに伝わる企画だと思いました。

島根県立大学短期大学部松江キャンパス

・Kumori とのコラボの理由がステキでした。地域に密着している活動…大学内に収まらない活動が魅力的だと思いました。参考にしたいです。
・地域の人々との交流が活発で、それぞれの年代に合わせた工夫がされていておもしろいと思いました。
・おはなしレストランライブラリー　利用者の子どもに向けた活動が興味深かった。毎年、利用者（子ども参加者）が増えている努力がうかがえた。
・グッズ、インパクト大です！！　としょかんクイズというのがあるんですね。年齢によって、内容を変える配慮等、活動の軸がしっかりされている印象でした。
・子どもたちが本に親しむきっかけになるように様々な活動をしていて参考になった。活動の目的がはっきりしていてわかりやすかったです。

山口大学総合図書館

・新入生を対象にしたスタンプラリーなどの直接的な活動はめずらしいと感じた。
・学生の方が主体的にとり組んでいる様子がよくわかりました。ケシカスのゴミ箱などアイデアが豊富で、利用者に近い様子が感じとられました。
・スタンプラリーや POP 番付という楽しそうな活動に興味がわきました。
・利用者参加型の活動を実施していて、参加者に楽しんでもらえる工夫をしていたのが良かったです。反省、改善点まできちんと考えていた点も良かったです。
・積極的な、告知の方法を見ならいたいと思います。
・利用者と図書館をつくることをめざすために、読書会をするのはいい案だと思った。

山口大学医学部図書館

・「投書しやすい意見箱」など、意見を取り入れやすい環境作りをしていらっしゃるんですね。
・図書館の具体的な特徴がわかりやすかった。医学部の学生がメインのターゲットなので、そのことを考慮して活動内容をしぼればいいなと思った。
・24 時間利用できるというのがとても良いと思いました。読書会から交流を広げていくというのもいいと思います。
・消しカスのカミカップは帰ったらすぐに提案します。ありがとうございました！
・図書館を明るくという目標がステキでした。

梅光学院大学

・テーマを決めたビブリオバトルが面白そうだと思いました。今後の活動計画も具体的でした。
・小規模であることを生かして企画を考えたりすごいなと思いました。
・本屋とのコラボをしてみたいという姿勢がいいなと思いました。本屋＝地域をまきこんで大学の宣伝と支援ができるというところが面白いなと思いました。
・しっかりしたプレゼンありがとうございました。ビブリオバトルをやるにあたり、積極的に外部へ広報しにいく姿はとてもよかったです。これからも頑張って下さい。
・地域に開かれた図書館で、学生の皆さんが市民の方々と協働されていることが敬服します。書店さんとのコラボの成功をお祈りしています！！

■ 交流会

ポスターセッションの後、会場を梅光学院大学カフェテリアに移し、交流会を行なった。
実行委員会校の学生代表の挨拶が行なわれ、河豚の空揚げや、瓦そばなど下関ならではの料理を楽しみながら、学生・教職員の立場を超えた交流の輪がますます広がった。

立ち上げ当時から関わってきた島根大学職員より、シンポジウム立ち上げ当初の報告もあった。

■ ワールドカフェ

「繋がりを生み出す図書館となるために、あなたは何をしますか？」をテーマにワールドカフェを行なった。梅光学院大学文学部の渡辺玄英講師がコーディネーターを務め、２４班に分かれ、１ラウンド２０分で３ラウンドの話し合いを行なった。今回のシンポジウムの大きなテーマ「図書館維新～図書館が繋ぐ人と人～」の総まとめとなる意見交換が活発に行なわれ、シンポジウム最終日を飾るにふさわしいワールドカフェであった。３グループが代表して発表を行なった。

以下、各テーブルホストがまとめた話し合いの概要を紹介する。

※各班の用紙は、梅光学院大学図書館ＨＰで見ることができます。

A

インターネットの発達により電子化書籍貸出等の図書館サービスを受けられるようになった現在、図書館をめったに利用しない人向けにはfacebookやtwitterなどSNSを通じての交流を、そして図書館によく足を運ぶ利用者には、本のフリーマーケット、絵本読み聞かせ、サークル展示ブースの提供など新しいイベントや、多様な立場の人と交流できる場を提供することで、新たな繋がりを生み出すことができる。

両者への異なるアプローチと両者が共存する居場所づくりが必要だが、それぞれの居心地の良さは異なるため、住み分けを保持することが重要となる。（梅光学院大学大学院文学研究科　柴田　稔）

B

企画の提案が主なものとなった。読書会、部室に出かけてのプレゼン、レポートの書き方講習、院生の講義、本の交換（古本市）等。企画を出す際必要なのは、持続可能であることと、広報であろう。ポスターを貼る、Web を使う等で広報するが、実際認知されることは多くない。また、図書館にまず親しんでもらう為の案も出た。ゆるキャラは親しみと同時に話題の共有もできる。大学ごとに院生と学部生の関わりの度合いが違うことを知り、今後本学でも深めていきたい。（梅光学院大学大学院文学研究科　頼富　雅樹）

C

Cグループでは、まずどうすれば図書館を通して人と人とを繋ぐことが出来るか考えました。コラージュを図書館に貼る活動をしている大学の報告は、特に興味を引きました。雑誌を切り抜いて画用紙に貼るという活動を学生や職員がすることによって、繋がりが発生するとのことでした。それぞれの大学で「人と人が繋がる」活動を発展させていければと思いました。（梅光学院大学子ども学部4年　久間　省吾）

D

図書館は学生たちに片思いをしている。多くの学生に足を運んでもらうために、本屋大賞などの流行に目を向けたり、学生の求める本や空間を取り入れたりしているが、まだまだ想いは届かない。この「想い」をどのようにして届けていくのかを、私たちの班で話し合い、図書館がサークルなどと協力してイベントを開催することで、図書館と学生がつながって、「両想い」になれるようにしていこうとまとめた。

（梅光学院大学文学部4年　林田　直樹）

E

私たちの班では、まず学生と繋がることをテーマに様々な話が出ました。利用者を飽きさせない工夫や居心地のよい空間の提供はどうかという意見が出たり、読書会をきっかけに出会いが生まれたりしないか、また、企業との連携でイスや机などをオシャレなカフェのような空間にしたら人が来るのではないかという話が出ました。（梅光学院大学文学部3年　安部　咲貴子）

F

私たちは、具体的な大学図書館の環境整備について話し合った。飲食スペースを作る、トークスペースを作る、映像機器を設置するなど魅力的な環境を整備した上で、図書館の中で待っているのではなく、こちらから飛び出し、図書館外での貸し出しを行う、イベントの宣伝をポスターだけでなく口頭で行う、などの意見が出た。（梅光学院大学文学部3年　青木　日向子）

G

私たちの班では、過去・現在・未来という視点から「つながり」について話し合った。図書館を中心に様々な小グループをつなぎ大きなネットワークをつくる、またはグッズ作りや情報発信によって図書館に愛着を持ってもらうことから、未来の利用者をつくることが可能ではないかと話し合った。また、学生スタッフの管理やセキュリティーの問題など多岐にわたる意見が出た。

（梅光学院大学文学部3年　植高 公朋）

H

地域の人とのつながりについて、まず話し合った。大学図書館は地域の人にとって敷居が高いが、その敷居をどこまで下げてよいのかが問題である。雑誌や一般的な図書を大量に取り入れるなどすれば、地域とのつながりは増えるかもしれない。しかし、学びの場としての大学図書館であることとのバランスが難しい。

何はともあれ、図書館に来るきっかけを作ることが重要である。それには、利用者を満足させるサービス（雰囲気）を提供しなければいけない。（梅光学院大学文学部3年　大山 慧）

I

繋がる、ということについて様々な視点から考えた。人と、本と、時代を超えて、国を越えて、地域と、サポーター同士と、職員と。図書館にはたくさんの繋がりや、またそのきっかけがある。私たちは図書館をそのままの意味で使用するのではなく、図書館を通じて何かと繋がり、成長していくことが必要。

話の中で難しかったのは、関心のない利用者にどのようにして、アプローチをしていくか。大事だと思ったのは、利用者の”声”を聴く場を提供しなければならないな、ということ。（梅光学院大学文学部3年　甲斐 真由香）

J

J 班では、図書館と利用者を「繋ぐ」方法に重点を置いて話し合った。利用者が利用しやすい工夫をする、それを広報するにはどんな方法を取るべきか。また、そもそも図書館へ赴いてもらうためにできることはないか、といったことを話し合った。図書館利用の説明会を開いたり、おすすめ図書を見てもらうなどの意見が出た。（梅光学院大学文学部3年　柏木 祐美子）

K

地域との繋がりから考えたのですが、大学図書館に一般の地域の方を呼び込むにはどうしたらいいのかということを中心に話し合いが行われました。継続的に行えるイベントを企画したり、学生が特定のある分野を地域の方（主に子供）に教えてあげたり、経験談を話すなどの提案がありました。そのような活動は、地域の方だけでなく学生側の学びにも繋がると結論付けました。その場合、広報を徹底して行う必要性があると話し合いました。（梅光学院大学文学部3年　川野 吏佳子）

L

Lテーブルでは一貫して、つながる為に図書館はどうすべきかの具体的な案について話し合った。出た案を分類すると、イベント系、普段の広報、本を離れた場での交流などに分けられる。読書会や読み聞かせの開催、本のポップに感想を貼り合ったり、twitter などネットを利用した広報、また入口にノートを置いて自由に書き込むなどの、実現できそうなアイディアの交換や閃きが活発に行われた。

（梅光学院大学文学部3年　紺野 明日香）

M

私達M班では、人と図書館の繋がりを生み出すためには、まず図書館に来てもらうことが必要だという話になりました。人を呼び込むためには、オリジナルグッズやキャラクターを作り、本を何冊読んだらプレゼントなどの企画をしたり、行事ごとにイベントを開催するという意見がでました。そしてこれらを知ってもらうために、SNS やユーチューブ、オリエンテーションで知ってもらうという意見が出ました。一番大切なことはこれらを継続的に続けていくことという結論になりました。（梅光学院大学文学部3年　立石 笑子）

N

まず、「繋がり」とは何だろうと話し合った。図書館で「繋がり」を生み出すには、まずは図書館へ足を運んでもらわなければいけない。そこにはきっかけが必要不可欠である。友人を連れて行く、本を紹介する、ポスターを掲示する、SNS を利用しての広報をするなどのきっかけ作りをし、「繋がり」の連続的な発生を構築することが必要である。（梅光学院大学文学部3年　関 眞輝人）

O

第一第二ラウンド共に、ラーニングコモンズについて話しが盛り上がった。まったく機能していない大学、ほぼ毎日満席の大学と大きくわかれた。人を増やすためにサクラをやったというおもしろい意見やイベント(ビブリオバトル・発表会)をしたという意見もでた。しかし、第三ラウンドではあえてつながりを意識しない、つながりを目的としなくてもよいのではないかという意見に同意するメンバーが出た。情報や人、本といったものが自然とつながりを生むのではないだろうか？　（梅光学院大学文学部3年　林 いずみ）

P

つながりをもつために何をするか、という問いに対し、誰と誰がつながるのか、それは図書館の内か外かといった、様々な立場の様々な意見が出された。つながりを生むためには、まず利用者を増やし、その為に効果的な広報をあえてしない方がより開放的で利用しやすいかもしれないといった、時には真逆の意見もあったが、全体を通して和やかに、協力的に話を進めることができ、意見を共有することができた。

（梅光学院大学文学部3年　原田 憲成）

Q

Q班では主に繋がりというテーマに対して地域、学生と職員、そして図サポ同士の繋がりという3つの事柄について話合いました。

個人的に面白いと思った意見はサポーターと職員の信頼を深める為に食事を共にするというものです。どんな企画をやるにしてもサポーターと職員のつながりがうまくいってないと実現が難しいと思うからです。ぜひ、梅光にも取り入れたいと思います。　（梅光学院大学文学部3年　藤田 京介）

R

まず学生同士のつながりを強めれば、ビブリオバトルなどのイベントに参加しやすくなり、「人と人」「人と本」をつなぐことができる。図書館の本を、人が集まる所へ持って行き貸し出しもできる「飛び出せ、図書館」の提案や、のんびりとできるスペースのある、行きたくなる図書館作りをする、ティッシュ配りや図書館合コンを開催して話題作りをするというアイディアも出た。地域の人に開放して地域とのつながりを作る場合、公共図書館と大学図書館の特徴を打ち出すにはどうすればよいか話し合った。

（梅光学院大学子ども学部3年　古川 瑞希）

S

まず何とつながるのかについて話し合った結果、地域・学生・利用者とつながるということを話し合った。施設面のリフォームや気遣いにより、利用者数が増え、地域、利用者とのつながりが増すのではないか？例えば、一人用のテーブル、畳、団体に貸し出せる会議室など。

また、学生目線のイベントを行うことで、学生が来やすくなり利用者増につながるし、図書館の存在、イメージを浸透させることができるのではないか？例えば、レポートの書き方講座や本紹介など。

図書館は、年々役割が変わるため、役割によってつながり方も考える必要がある。

（梅光学院大学文学部2年　松岡 由美）

T

T班では、先ず誰と繋がるかという話になり、愛媛大学の学生さんが学生支援として高校生とのつながりの話をしてくれました。その他、大学生に興味を持ってもらうにはなどの意見が出ました。一方、図書館は人とつながらなくても居て良い場所、という一面も大切ではないかという話題が出て、本とつながることで人を元気づける場所でもあると共感しました。そしてこのシンポジウムの参加者とのつながりを大切にしていこうという切なる願いを感じました。　（梅光学院大学文学部2年　田中 章子）

U

Uテーブルでは、人と人がつながるイベントを開催すると良いという案が出ました。イベントを開催するためのボランティアとして学生、他大学の学生、地域の方々と交流しながら、協力すれば良いイベントになるはずです。

そして、そのイベントの情報共有の場、報告の場を作ることにより、さらにいっそうの発展が期待されると話し合いました。　（梅光学院大学子ども学部1年　今村 僚貫）

V

「繋がり」とは？という問いに対し、まず図書館に人を集めるには、ということから話し合った。1ラウンドでは広報やイベントの重要性について話し合った。

2ラウンドでは、図書館とは？情報とは？とそもそもの概念や、それぞれの大学での取組みについての話が出た。

3ラウンドでは、利用者も職員も共にコミュニケーションの機会を作ることが重要という結論であった。

（梅光学院大学人文学部1年　廣延 健）

W

そもそも「つながる」って何？ということから始まった。図書館では、司書さんと学生、学生と学生等のつながりがある反面、図書館でつながる必要があるのか？との意見も出た。図書館で一人静かに過ごしたい人もいるのである。グループで話し合いながら勉強したい人と一人静かに過ごしたい人との住み分けに気を付ける必要があるなどの意見が出た。

（梅光学院大学子ども学部1年　水野 楓）

X

人と繋がるためには、広報が大切であるという話になりました。年代や性別のニーズに合うよう、SNSやポスターなどで広報していくことが大事だと話し合いました。図書館の本質を損なわず、活かして、人と人をつなげるための広報活動を継続的に行うことが重要と言う結論になりました。

（梅光学院大学子ども学部1年　山本 彩世）

■　下関市立中央図書館見学

読書通帳機・予約ロッカー・自動書庫など、最新のＩＴ機器を備えた公共図書館を、希望者のみ見学した。

■ 教職員意見交換会

全プログラム終了後、希望教職員のみで意見交換会を行なった。２０大学３５人の参加があり、１時間半の短い時間の中、お弁当を食べながら意見交換を行なった。

学生の自主性を向上させるには？協働事業を継続させるには？今までの活動で反響があったものは何か？制度上の保証が明文化されているか？などについて報告し話し合った。これから学生協働に取り組む大学も多く参加し、すでに１０年以上学生協働を行っている大学からの報告を熱心に聞くなど、全国的な関心の高さを示す内容であった。

３　当日アンケート集計結果

参加者総数　　**１７８名**
アンケート回答数　　**１２０名（回答率　６７%）**

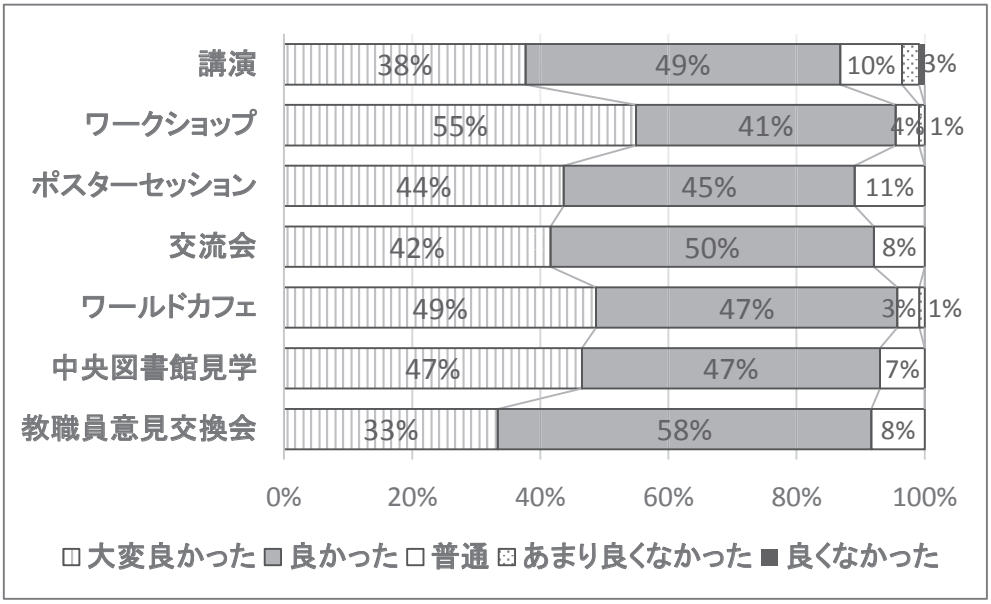
１．回答者の内訳

区　分	回答者
学部学生	62
大学院生・研究生	8
職員	44
教員	3
その他	3
計	120（名）

２．どこでこのシンポジウムを知りましたか

区　分	回答者
図書館関係の教職員・学生から	101
関係機関のHP・ツイッターなど	8
メーリングリスト	8
他の Web 機関	0
その他	3
計	120（名）

３．各プログラムの満足度



４．各プログラムについての自由記述（選択した理由、感想、意見など）

＜講演＞

- 自分が今まで全く知らなかった活動のお話が聞けて、大変参考になった。（学部学生）
- 自分の大学に持ち帰って、行いたいイベントのヒントになるものがたくさんあったので、とても有意義でした。（学部学生）

・ 図書館で何をできるか考えることができたしヒントもたくさんいただけたと思う。また、人と人がつながり協力しあえる場（帝京大学さんの例）が参考になった。（学部学生）
・『共読』を初めて知った。誰かと共に読み、理解を深めるということは、昔から言われていたが、その方法を企画し、実践しているのはすごいと思う。（学部学生）
・ “読書はかっこいい”という言葉がとても印象に残りました。イメージを変えていくのが図書館に人を呼ぶ近道と改めて感じました。（職員）
・ 貸出冊数の減少という悪い出来事をきっかけに、始めた建設的取組に感服。（職員）
・ 読書するということを新しい方法で提案してくれた。時間内に終了すればもっと良かった。（職員）
・ 共読という今まで興味があった取り組みについて聞く機会がなかったため、とても参考になりました。（職員）
・「共読」という新しい試みについて知れてよかったです。公共図書館でもこういった活動が出来ればいいと思いました。（その他）

＜ワークショップ＞

・ 本に親しむきっかけを生むヒントを得ました。（学部学生）
・ 他大学の方と簡単に交流でき、また講演内容を実践できてよかった。（学部学生）
・ POP 作りにも活用できるので参考になった。（学部学生）
・ 新しい本の読み方として楽しむことができた。キャッチコピーの書き方などは自団体の活動にいかせると思う。（学部学生）
・ 去年もシンポジウムに参加したが、去年とはまた違った内容で面白かった。（学部学生）
・ 帯を通して内容を考える…本が持つ魅力の一つだと思います。勉強になりました。（学部学生）
・ 自分が本とどのように関わっているのか、考えることができた。何となく選んだ本でも、実にちゃんと選んだ理由がある。その理由と目次からわかる本の内容が、合っているのかどうか確認する作業は面白かった。（学部学生）
・ 帯の言葉（文章）は、簡潔であるが本の内容を的確に捉えていて読者の心を捉える大切なものだと感じました。展示されていた皆さんの帯を見ると、どの帯もその人の特色が出ていておもしろかったです。（職員）
・ 自大学でもすぐに実践できそうだと思いました。（職員）
・ 短い間に「共読」がどのようなものか、体験することができました。（職員）
・ 図書館ならではの、面白い試み。本と読書の新しい可能性はまだまだ無限にあると思いました。（職員）
・ 短い時間で、成果物(帯）が完成できたことは、素晴しいと思いました。イベント等の参考にさせていただきます。（職員）

＜ポスターセッション＞

・ 各大学の取り組みについて深く知ることができました。今後の活動が気になるというところから今後の交流が生まれますね。会場が少しきゅうくつだったことだけが残念です…（学部学生）
・ 他団体の活動を知ることができてよかった。欲を言えば、もっと長い時間交流したかった。（学部学生）
・ 他大学の活動を知ると同時に自分の大学での活動そのものをふり返り今後を考えることができました。（学部学生）
・ 他大学図書館の取り組みを、実例を通して知ることができたため。発表者に気軽に質問することができる形式も良いと思った。（大学院生・研究生）
・ いろんな取り組みを知れてよかったです。見る人をグループ分けして、1組5分ずつくらいで全ポスターを回るようにすると全てのポスターの発表が聞けてよかったと思う。（職員）
・ もう少し時間があると全部の発表が聞けたと思うので、その点少し残念でした。でも図書館の空間を有効に使っておられてよかったです。（職員）
・ どこにどの大学のパネルがあるか、一覧の地図があるとよかったかもしれないと思いました。（職員）
・ 各大学とも、熱意が伝わってきて面白かった。会場が狭いので、2回に分けてもよかったかも。（職員）

＜交流会＞

- 交流が中心だったと思うので料理はもっと少なくてよかったのではないでしょうか。いくつかのテーブルでは料理がそのまま残っていたように思います。（学部学生）
- 活動の背景を知ることが出来た。（学部学生）
- 楽しく、色々な大学の方から良いこと、苦労する裏話なども聞けたので、特定の立場に限らず、様々な視点で話が出来た。（学部学生）
- 少し足がつかれた。かわらそばなど地元の料理も出ていてよかった。（学部学生）
- ポスターセッションのとき以上に、深いお話が出来た。（学部学生）
- 料理も席やイスの配置も大変良かった。自由に交流できる形式で大変盛り上がったように思うが、一目で相手の所属や立場が分かる仕かけがあればなお良いように思う。（大学院生・研究生）
- 職員同士だけではなく、学生さんとお話させてもらって日頃の活動の話しを聞くことができたので貴重な時間を過ごすことができました。（職員）
- アットホームな雰囲気の中、様々な大学の学生の方、教職員の方々とお話でき、楽しい交流会となりました。（職員）

＜ワールドカフェ＞

- 深いテーマだと思いました。自分でも、考えたことのない意見が出てきたりしたので、勉強になった。（学部学生）
- 新たな活動に向けてのヒントをたくさん得られました。つながらないことでつながる、ということについて考えを深めたいです。（学部学生）
- 今後についてつきつめて話せたので、良いな、と思うアイディアが沢山聞け、またその刺激で自分でも新しいアイディアが浮かんだりもした。大変充実した時間をいただけたように感じる。（学部学生）
- 図書館のつながりをどういう方法でつなげていくか、というテーマはよく話し合いになるので、今回のワールドカフェで色々な方法や考え方を知り、まとめることができて良かった。（学部学生）
- 私たちの班では、みなさん積極的に参加してくださり、意見もどんどんでました。“時間が足りない”と思うほど充実したものになりました。（学部学生）
- 一日目に程よく交流した上での活動であったため、最適な効果をあげたように思う。多様な考えに触れることができた。質問する人が少ないように感じたが、司会の機転により幾つか特色ある考えに接することができた。テーマについて考えを深める良い場であったように思う。（大学院生・研究生）
- 一つのテーマから色々自由に話し合うというのがとても勉強になりました。途中でテーブルを替わるのが、さらに内容を発展させていくのを感じました。（職員）
- テーブルマスターの進め方により、充実した内容になるかどうかが分かれると思いました。（職員）
- テーマが少し難しかった。その分、様々な話を様々な角度から聞くことができ、新たなアイデアや企画のヒントを得ることができました。（職員）
- 狭くて身動きがしづらかった。座席の向きは司会側に向けた方がよかったかも。ビブリオバトルのように、残り時間をPCに表示してカウントしてはどうでしょう。（職員）

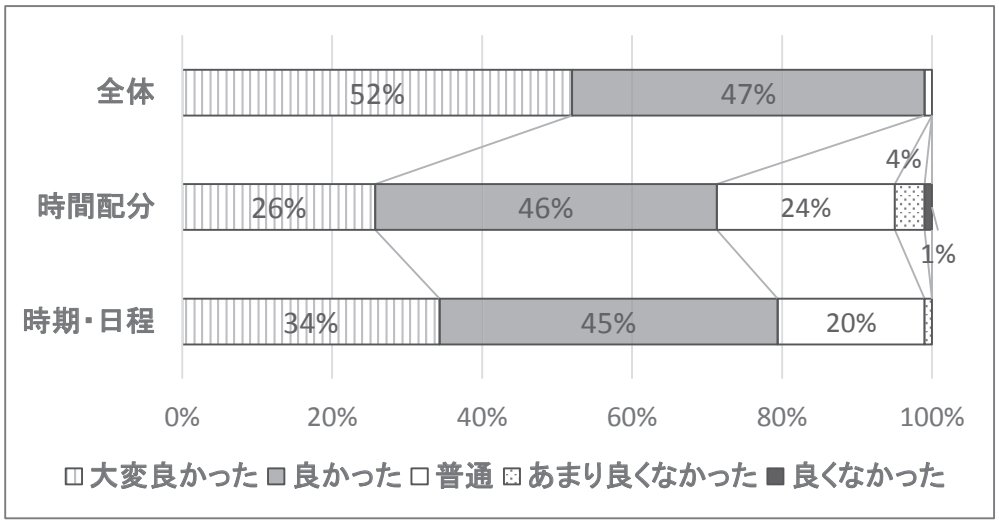
＜中央図書館見学＞

- 自動書庫やカウンターの裏を見ることができてよかった。（学部学生）
- 自動で出てくる書庫を初めて見たので驚きました。あたたかい雰囲気で入りやすいかんじがしました。説明もわかりやすかったです。（学部学生）
- 体験したことのない大きなスケールの図書館にとても感動しました。特に自動書庫は、膨大な量の書籍を管理する、すごいシステムだなぁと思いました。（学部学生）
- 最新の施設、設備に大いに感嘆しました。（職員）
- 丁寧に案内していただいてありがとうございました！他ではなかなか見れないものばかりでよかったです!!（職員）

＜教職員意見交換会＞（※教職員のみ）

- 色々な論点がつかめて良かった（教員）
- もう少しゆっくりと話を聞く時間がほしかったです。聞きたいことがたくさんあったので、また次回を楽しみにしています。（職員）
- 職員の運営面でのなやみや事例が伺えてよかった。制度上明文化しておくという観点をいただけてよかったです。（職員）
- 実践に基づいた意見を伺い、大変参考になりました。（職員）
- 同じような悩みを抱えていらっしゃる大学が多く、参考になりました。（職員）
- 内容的には充実していたが、時間がなさすぎ。事前アンケートの内容を予め知らせておいた方が余裕を持てた。（職員）

５．シンポジウム全体について



６．シンポジウム全体についての自由記述（選択した理由、感想、意見など）

- 初めて参加したのですが、色々な視点をもった方からたくさん刺激を受けることができたのが良かったと思っています。（学部学生）
- 図書館協働は身内での集まりで固定しやすいので、外とのつながりを持てて、交流できたことはとても貴重だった。（学部学生）
- ワークショップからのポスターセッションという流れが良かった。他校の人と挨拶した後だったので、交流してみようという気になった。（学部学生）
- よく準備されていたので楽しめました。あえて言うならば、指示を的確に出してほしい。パンフレットのアンケートをはさんだままだが、いつ書くのかな？（学部学生）
- ハンドベル部の演奏があったり、大学全体で行っているなという感じがした。「図書館」というものが様々に変化しており、自分の考える「理想の図書館」について再び考えさせられました。協働の活動においても、何故それをするのか目的は何かをしっかりと考えて活動していくことが大切だなと感じました。図書館で活動していない有志の学生もおり、多様な意見をきけた。（学部学生）
- 複数人数との意見交換をすることによって、自らの図書館に対する想いが強まった。色々なアイデアを知った上で、考えることは新しいモノを生み出すことに繋がると思うので、この場は大切に続けていってほしい。（学部学生）

- 図書館の利用は、本を読むだけでなく他にもいろいろな可能性があるのだと知りました。まだまだ、可能性があるだけで実行できるか分からないけど、人と人とのつながりを意識した活動を企画していきたいです。（学部学生）
- 大変お世話になりました。来年も参加したいと思います。最初、おもいっきり、リラックスできる仕組みがあるとよいと思います。「アイスブレイク」は重要な要素と思います。学生は学生だけ、学生と職員が共に考える、職員だけで考える、などのプログラムがあるとよいと思います。以上です。ありがとうございました。（職員）
- 他地区（中四国以外）からも、もっと参加があればいいと思う。（職員）
- 図書館活動を通して、学生と教職員が交流できる貴重な機会であると思う。特に学生にとっては、他大学の同世代の学生と関わることは、それぞれの成長にとって大きなよき影響を与えることと思われる。（職員）
- 学生たちのグループでの活動を全国の同年代の仲間と披露し合える場ですので、今後も継続すべき事業だと思います。（職員）
- 日頃、学生協働で思っていることを、他の参加者さんと話した時に、同じ悩みを持っていることが分かった。自分の大学にいるだけでは分からない他大学の現状を知ることができて参考になった。（職員）
- お茶やハンドベルなど、大学あげて歓迎して下さり、たいへん楽しませていただきました。本当に暖かみのあるシンポジウムだったと思います。ありがとうございました。（職員）
- 学生と職員の距離がとても近かったシンポジウムだったような気がします。うまく表現できませんが、物理的にも近いところにいろんな人がいるので、気づいたらとなり！といったこともあり、いい意味でどっきりでした。（職員）
- 参加者の誘導、また時間配分が上手くいかなかったなど、反省も多くありましたが、2日間、概ね順調に進行したと思います。大規模大学さんには無い、小規模私大だからこその味を出せたのではないでしょうか。（職員）
- 「報告」と「交流」と少しの目新しさを盛りこんだお祭りのようでした。全学的な参加（ハンドベル、茶道部、BBC）が良かった。（職員）

7．本シンポジウムで取り上げてほしいテーマや企画、改善の提案等

- 他大学の活動を知ることができ大変参考になりました。身内だけで終わらずに外の大学とつながりを持ち活動を広げていくことはとても有意義なことであると感じました。できればパンフレットのアンケートの項目ページに各大学の連絡先をのせるとシンポジウムが終わってもつながりを保ちやすく良いのではないでしょうか。（学部学生）
- シンポジウムで出た案を共有できるような取組（フェイスブック、メーリングリスト等）があれば良いと思います。（学部学生）
- （各大学の）評判の良かった取り組みを全体に発表する機会があると面白いなと思いました。オンライン読書術というのを取り上げてほしいと思った。（学部学生）
- 今回は図書館における活動中心でしたが、本そのものに深く関わる活動や企画があってもいいと思います。（学部学生）
- ワークショップでも出ましたが、他大学との連携がとれるとよいと思います。今回の資料も、HP（会員サイトでも可）にUPし、いつでも参考とできるようにしていただくとありがたいです。（職員）
- 進行状況をリアルタイムで外へ実況できるシステムがあれば、参加できなかった大学も今後に期待できるかもしれない。だが、これ以上参加人数が増えるようであれば小規模大学の開催は難しい。思案のしどころだと思います。（職員）
- 主催が中国四国地区大学図書館協議会になったので、今後はより多くの大学に参加してもらえるのではないかと期待している。（職員）

交流した！繋がった！

受付開始

「共読」の講演をする中嶋先生

講演に聞き入る参加者

帯作りワークショップで和気あいあい

ワークショップで「共読」を体感

読み合い、薦め合い、評し合った！

熱気でいっぱいのポスターセッション(1)

熱気でいっぱいのポスターセッション(2)

お抹茶のおもてなしで一休み

ハンドベル演奏で心静かに

１日目の終わりを締めくくる交流会

様々な大学の方々との交流

活発な意見が飛び交うワールドカフェ(1)

活発な意見が飛び交うワールドカフェ(2)

活発な意見が飛び交うワールドカフェ(3)

** シンポジウム・ハイライト **

参加機関一覧

３５大学　５公共図書館　　１７８名

- 岩手県立大学
- 十文字学園女子大学
- 大正大学
- 東京大学
- 愛知大学
- 龍谷大学
- 京都精華大学
- 同志社大学
- 追手門学院大学
- 和歌山大学
- 就実大学／就実短期大学
- 山陽学園大学／山陽学園短期大学
- 広島大学
- 広島工業大学
- 広島修道大学
- 広島女学院大学
- 福山大学
- 宇部フロンティア大学
- 下関短期大学
- 水産大学校
- 山口東京理科大学
- 香川大学
- 徳島大学
- 愛媛大学
- 北九州市立大学
- 筑紫女学園大学／筑紫女学園大学短期大学部
- 大分大学
- 熊本大学
- 宮崎県立看護大学
- 鹿児島大学
- 島根大学
- 島根県立大学／島根県立大学短期大学部
- 山口大学
- 梅光学院大学

- 帝京大学（講演　ワークショップ）

- 光市立図書館
- 下関市立中央図書館
- 下関市立長府図書館
- 下関市立彦島図書館
- 下関市立豊浦図書館

第５回大学図書館学生協働交流シンポジウム報告書

図書館維新　～図書館が繋ぐ人と人～

2015（平成27）年１１月１日発行

発行：梅光学院大学図書館

印刷：アカマ印刷